



6月3日から、ワシントン条約の会議が開かれています。

6月3日～15日、第14回ワシントン条約締約国会議がオランダのハーグで開催されています。トラフィック イーストアジア ジャパンは、締約国会議に向けて数回のシリーズでワシントン条約関連情報を各マスメディア関係者の方々に配信することにしました。会議に関する正確な情報の入手や取材の参考としてお役立てください。また、ご不明な点や詳細に関してはトラフィックまでお問い合わせください。

今度の会議はどんな会議？

今回の会議はオランダのハーグで開催されています。EUでおこなわれる最初のワシントン条約締約国会議となります。27カ国の加盟国からなるEUは世界でもっとも大きく、もっとも多様な野生生物製品の市場のひとつで、その輸入は世界の合法的な輸入の3分の1以上を占めます。

EUと同様に野生生物の消費国のひとつである日本としてもこの会議は注目すべきイベントです。

附属書改正提案の行方を考えてみませんか。

国際取引規制の程度を左右する附属書ですが、会議のたびに、必要に応じて改正について議論されます。新たに規制の対象とするものや、規制をゆるくするものなど、会議全体のなかでも大きな議題となっています。

↓ ウェブサイトで公開中。

●「附属書改正提案の分析」

各提案に関し、トラフィックが取引や利用について、IUCNが生物学的な情報や生息状況について情報を集め、この分析結果にまとめています。提案を考慮する際にどこかポイントとなるかが整理されており、内容を具体的に検討するのに役立つ資料となります。

●「トラフィックの見解」

トラフィックは、総合的また客観的に分析結果を検討し、それらに対する見解をまとめ公開しています。ここではそれぞれの提案に対し、支持あるいは不支持を理由とともに述べています。締約国が提案を判断する際の参考として利用されます。



「附属書改正」が提案されている主な動植物

ハーグでの会議にむけて各締約国から37の附属書*改正提案が提出されました。

提案には、アフリカゾウ、ヒョウをはじめ、サメやアメリカイセエビ、ヨーロッパウナギ、宝石サンゴなどの商業価値の高い海洋生物種、植物では、木材として使用されるローズウッドやスパニッシュシーダーや、薬用としても利用されるイチイなどがとりあげられています。持続可能な利用に関しては、ワニの仲間のクロカイマンやビクーニャの提案があがっています。

*ワシントン条約対象種は、その取引状況や生息状況に応じて3つのカテゴリーに分けられています。それが附属書とよばれるもので、附属書I～IIIの数が小さいほど規制は厳しくなります。詳細はトラフィックジャパンのサイトまで



左上から右回り ©WWF-Canon / Mikhaail KAVANAGH, ©Mote Marine Library, ©Crawford Allan/TRAFFIC, ©Andy Murch/Elasmodiver

附属書改正提案のリストはこちらからご覧いただけます。 <http://www.trafficj.org/cop14/>

関連ウェブサイト

トラフィックネットワーク(英語) : www.traffic.org
 トラフィックジャパン(日本語) : www.trafficj.org
 トラフィックイーストアジア(中国語) : <http://www.wow.org.tw/>
 ワシントン条約事務局(英語) : www.cites.org

TRAFFIC

トラフィック イーストアジア ジャパン
 (略称: トラフィックジャパン)

TEL:03-3769-1716 E-mail: traffic@trafficj.org

トラフィックジャパンの
ここに注目

日本にもなじみ深い
水産資源の提案に注目!